授業科目	現代文				平成 30 年度 国語科シラバス
学年 （コース）	２学年	創造	単位数	文系３ 理系２	
授業内容	・漢字学習を通して語彙力の向上に努める。 ・評論を読み、論理的思考力を養う。 ・小説に描かれた場面や登場人物の行動・心理を板書だけでなく、 電子黒板を用いて視覚的に読み取り、よりイメージを持たせることで、表現力を養う。 ・詩歌を読み、優れた表現の特色を知り、自己の表現力の向上に努める。 ・論理エンジンを用いて、文章の読解力・表現力を高める。 ・国語における基礎基本的な知識の習得に努める。 ・ビブリオバトル等の言語活動を通してコミュニケーション能力の向上に努める。				
到達目標	・高校生として相応しい漢字の読み書きができることに重点を 置き、語彙力を身につける。 ・論理的な文章の読解力を高め、論理的思考力を養う。 ・登場人物の心情と行動を読み取り、表現力を養う。 ・詩のリズムや形式・比喩などの技法を理解する。 ・表現技法・構成など作品の特徴を理解する。 ・自分の思いや考えを相手に伝え、他人の意見をしっかり聞くことが出来る 態度を身につける。 ・文章を書く力を身に着ける。				
評価方法	・定期考査を中心に、実力テスト・小テスト・課題提出・ノート提出・日常の授業への 取り組みや態度・出欠などをもって総合的に評価する。				
使用教材	教科書　「新編現代文Ｂ」　東京書籍 副教材　「論理エンジン　ＯＳ１」水王舎 「新総合　図説国語」東京書籍				
その他	理系は２単位なので選択して進める。				

	古典B			4月			5月			6月			7月		8月		9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年 創造	現代文 （＊優先）	随想	＊こそそめスープ					一学期中間					一学期期末								二学期中間					二学期期末			学年末						学年末考査		
			さくらさくらさくら																																	
		小説1	＊みどりのゆび																																	
			ナイン																																	
		評論1	＊生命とは何か																																	
			「ふしぎ」ということ																																	
		詩歌	詩・短歌・俳句																																	
		小説3	＊こころ																																	
		小説2	山椒魚（宿題）																																	
			旅する本（宿題）																																	
		評論2	＊思考の肺活量																																	
			安心について																																	
		働くよろこび	＊分からないからおもしろい																																	
			楽に働くこと～																																	
			＊情景の中の労働																																	
			鉄、千年のいのち																																	

授業科目	古典Ｂ				平成 30 年度 国語科シラバス
学年 （コース）	２学年	創造	単位数	3 単位	
授業内容	◎　古文 ・古典文法（用言・助動詞など）や重要な古語、文学史を理解する。 ・随筆に描かれた筆者のものの見方に触れる。 ・説話を読む中で常に動作主を意識し、登場人物の人間性に着目しその考え方に親しむ。 ・和歌とその修辞を学習し解釈したうえで、鑑賞する。 ・歴史物語や紀行文を読んで、内容を理解する。 ◎　漢文 ・ICT を用いて、文章中の情景を映像や画像を通して視覚的に味わう。 ・漢文の訓読（熟語の構造・訓読・書き下し文など）を学ぶ。 ・漢文に見られる語句の意味・句法を理解し、その内容を正確に読み取る。 ・漢文を読み、筆者の考え方を読み取ることで理解を深める。 ・漢詩を鑑賞し、想像力を膨らませて現代詩として自分なりの視点で享受する。 ・生徒が自発的に考え、知識を享受しあえるグループワークを行う。				
到達目標	・古典文法（助動詞・助詞）や古典単語を習得し、文章読解力をつける。 ・漢文の基礎知識を習得し、漢文を読解できる力をつける。 ・古典に興味を持ち、読むことの楽しさやおもしろさを発見する。 ・古典の読解を通して、作者のものの見方や考え方に触れ、自分なりの視点で享受し、自己の人生を豊かにしようとする心を育てる。				
評価方法	定期考査と小テスト、課題・ノートの提出、日常の授業に対する取り組みの姿勢などの平常点を総合的に判断して評価を行う。				
使用教材	教科書　・「新編古典Ｂ」（東京書籍） 副教材　・「新総合　図説国語」（東京書籍） ・「古典単語と一緒に学ぶこれからの古典文法」（尚文出版） ・「古典文法練習ノート」（尚文出版） ・「新明説漢文」 ・「新基本練習ノート」（尚文出版）				
その他	・予習として、教科書の本文を読み、難読・難意語句の読み・意味調べを行いましょう。 ・復習しやすいノートを工夫して作りましょう。				

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年 創造	古文・漢文	説話 随筆 軍記	宇治拾遺物語					1学期中間試験				1学期期末試験											2学期中間試験						2学期期末試験									学年末試験		
			古今著聞集																																				
			枕草子																																				
		物語	伊勢物語																																				
			源氏物語																																				
		漢文	小話																																				
			史記1																																				
			十八史略																																				

授業科目	世界史B				平成 30 年度 社会科シラバス
学年･コース	2学年	創造	単位数	2	
授業内容	教科書を中心として図表や資料等を適時導入しながら、世界の歴史への関心・意欲を喚起させ、世界の中の日本という意識を高めさせる。 政治・経済との関連にも配慮をし、民族や国家の活動を学びながら、基本的な歴史事項を理解させる。 人類の誕生から中世までの年代を地域史の観点からまず理解させる。さらに、各地域間の関わりにも注目しながら、世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させる。そのうえで，現代世界の文化の多様性・複合性につながる、各地域と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。 センター試験に対応できる力をつける。				
到達目標	世界の歴史への興味・関心をもち、主体的に歴史の学習に取り組む。 自国の歴史や文化をより客観的に見る目をはぐくみ、国際社会で活躍できる資質を養う。				
評価方法	定期考査（70%）、提出物、授業態度等（30%）を加味し、評価をする。				
使用教材	詳説世界史Ｂ　〈山川出版〉 詳説世界史図録〈山川出版〉 世界史用語集〈山川出版〉 世界史重要語句 Check List（啓隆社） 地歴高等地図〈帝国書院〉				
その他					

●授業進度表

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年･類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年 創造 探究	世界史B	序章	先史の世界																																				
		第Ⅰ部	オリエントと地中海世界					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
			アジア･アメリカの古代文明																																				
			内陸アジア世界･東アジア世界の形成																																				
		第Ⅱ部	イスラーム世界の形成と発展																																				
			ヨーロッパ世界の形成と発展																																				
			内陸アジア世界･東アジア世界の展開																																				
		第Ⅲ部	アジア諸地域の繁栄																																				
			近世ヨーロッパ世界の形成																																				
			近世ヨーロッパ世界の展開																																				
			近代ヨーロッパ･アメリカ世界の成立																																				
			欧米における近代国民国家の発展																																				
			アジア諸地域の動揺																																				

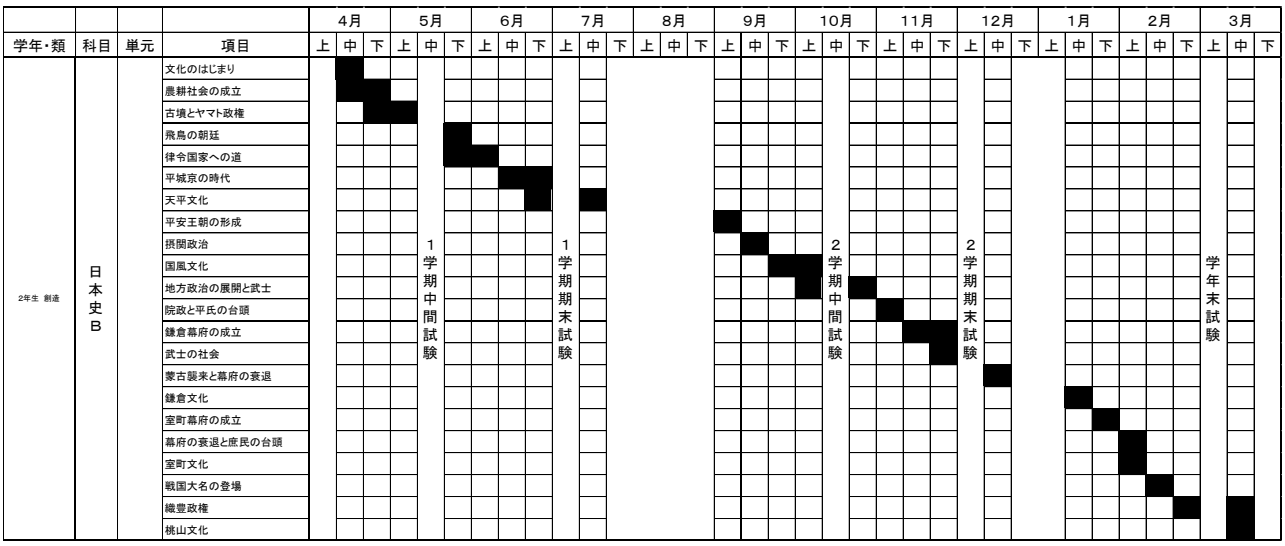
授業科目	日本史Ａ				平成30年度社会科シラバス
学年･コース	2学年	創造	単位数	2	
授業内容	・近代の日本と世界では、鎖国から第二次世界大戦まで扱い、近代国家の確立・対外関係変化・第一次世界大戦など国際情勢と関連付けをさせて考察させる。 ・現代の日本と世界では、第二次世界大戦後から現代までを扱い、日本の経済復興・対外関係・現代の暮らしにも関連付けて考察させる。				
到達目標	我が国の近世から近現代への歴史的な展開を諸資料に基づき地理的条件（東アジアの中の日本のあり方）や世界の歴史と関連付け，知識・興味とともに現代の諸課題に着目して考察させる。 また、歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
評価方法	定期考査７割、授業態度、提出物等の平常点３割とする				
使用教材	教科書：高等学校 日本史Ａ 人・くらし・未来				
その他					

●授業進度表

学年・類	科目	単元	項目	4月 上	4月 中	4月 下	5月 上	5月 中	5月 下	6月 上	6月 中	6月 下	7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	8月 中	8月 下	9月 上	9月 中	9月 下	10月 上	10月 中	10月 下	11月 上	11月 中	11月 下	12月 上	12月 中	12月 下	1月 上	1月 中	1月 下	2月 上	2月 中	2月 下	3月 上	3月 中	3月 下
2年 創造	日本史A	第2部	近代への胎動					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験						2学期期末試験									学年末試験	
			明治維新																																				
			近代国家の確立																																				
			対外関係の変化																																				
			政党政治の展開																																				
			近代産業の発展と社会運動の展開																																				
			国民生活の変化と文化																																				
			第一次世界大戦と日本																																				
			第二次世界大戦と日本																																				
		第3部	日本の再出発																																				
			独立後の政治と対外関係																																				
			経済の発展と国民生活の変化																																				

授業科目	日本史B				平成 30 年度 社会科シラバス
学年・コース	2 学年	創造	単位数	4	
授業内容	・「原始・古代の日本」では、旧石器時代から平安時代までを扱い、原始社会の特色及び古代国家と社会や文化の特色について、中国・朝鮮半島を中心に西アジアから東アジア世界の動向と日本におけるその文化的影響を関連付けて考察させる。 ・「中世の日本」では、鎌倉時代から室町時代（織豊政権以前）までを扱い、中世国家と社会や文化の特色について、東アジア世界の動向と武家社会との関りや、各時代の特徴を関連付けて考察させる。				
到達目標	我が国の歴史展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて多角的に考察させる。また、現在まで続く伝統や文化への認識を重視させることによって、歴史的な思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民として、正しい判断力を養う。				
評価方法	定期考査を８割、授業態度、提出物等の平常点を２割として評価をする。				
使用教材	教科書：詳説　日本史Ｂ　（山川出版社） 資料集：図説日本史通覧　（帝国書院） 地図帳：地歴高等地図　（帝国書院）				
その他					

●授業進度表



授業科目	地理Ａ				平成30年度 社会科シラバス
学年・コース	2学年	創造	単位数	2	
授業内容	教科書における「系統地理」の分野を扱う。 地図帳・資料集にチェックや書き込みをする。 新聞記事等の教材を使って、時事問題と地理的事象との関連性を学ぶ。 適宜、重要事項についての小テストを行う。 適宜、宿題・週末課題を出す				
到達目標	・系統地理に関する基礎知識を身に着ける。 ・地理的な事象について、その要因を地形・気候など地理的視点から理解できるようになる。 ・地図や統計データの読み取りができるようになる。				
評価方法	各定期考査を中心に、授業の取組等を考慮する。 定期考査（８割）・平常点（２割）				
使用教材	教科書　『新詳 地理Ｂ』（帝国書院） 『新詳 高等地図』（帝国書院） 副教材　『新詳地理資料　ＣＯＭＰＬＥＴＥ』（帝国書院） 『新地理要点ノート』（啓隆社） 『データブック オブ・ザ・ワールド』（二宮書店）				
その他					

学年・類	科目	単元	項目	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
				上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年創造	地理Ａ	地球儀や地図からとらえる現代世界	地上の現象と地球上の位置																																				
			経度の違いと時差																																				
			球面と平面の違い																																				
		人間生活を取り巻く環境	人々の生活と地形																																				
			人々の生活と気候																																				
			人々の生活と産業・文化																																				
		地球的課題とわたしたち	複雑にからみ合う地球的課題																																				
			世界の環境問題																																				
			世界の資源・エネルギー問題																																				
			世界の人口問題																																				
			世界の食糧問題																																				
			世界の都市・住居問題																																				

1学期中間試験　1学期期末試験　夏休み　2学期中間試験　2学期期末試験　冬休み　学年末試験

授業科目	政治経済				平成30年度 社会科シラバス
学年・コース	2学年	創造	単位数	2	
授業内容	・主権者として必要な民主政治の基本原理を、時事問題や歴史的な背景を踏まえながら学習する。 ・豊かな社会を支える経済的営みを、基本的な経済理論を踏まえながら学習し、 経済社会のあり方について考える。 ・新聞スクラップやレポート、グループ討議などを適宜行い、物事について主体的に考える力、対話を通じて合意形成できる素地を養う。				
到達目標	・民主主義の本質について理論的・体系的に理解を深める。 現代の政治・経済・国際関係などについて理解し、現実の情勢を主体的に探究できるようにする。 ・日本国憲法の基本原理、日本の政治機構などを理解し、現代政治の諸課題について考察できるようにする。 ・現代経済について基本的な経済理論を理解したうえで、政府の役割や課題について考察できるようにする。				
評価方法	各定期考査を中心に、授業の取組等を考慮する。 定期考査（８割）・平常点（２割）				
使用教材	教科書　『高等学校 改訂版 政治・経済』（第一学習社） 副教材　『政治・経済資料 2018』（とうほう） 『用語集　政治・経済』（清水書院）				
その他					

●授業進度表

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年創造	政治・経済	民主政治の基本原理と日本国憲法	政治と法の機能		■			1学期中間試験					1学期期末試験			夏休み						2学期中間試験						2学期期末試験			冬休み						学年末試験		
			人権保障と法の支配		■	■																																	
			議会制民主主義と世界の政治体制			■	■																																
			日本国憲法の基本原理				■		■																														
			平和主義と自衛隊						■	■	■																												
			基本的人権の保障と新しい人権							■	■	■			■				■																				
			国会の組織と立法																■	■																			
			内閣の機構と行政																	■	■																		
			裁判所の機能と司法制度																		■	■																	
			地方自治制度と住民の権利																			■			■														
			政党政治と選挙制度																			■			■														
			民主制時における世論の役割																						■	■													
		現代の国際政治と日本	国際社会と国際法																							■	■		■			■							
			国際連合の組織と役割																													■	■						
			国際政治の動向																														■	■					
			国際紛争と難民問題																															■	■				
			軍備管理と軍縮																																■	■			
			日本の外交と国際平和への役割																																	■		■	

授業科目	数学Ⅰ				平成30年度 数学科シラバス
学年・コース	2学年	創造・7限	単位数	2	
授業内容	１年次に学習した数学ＩＡの基本事項の定着と演習 プリント学習中心。 数学ＩＡの内容 「数と式」,「2 次関数」,「図形と計量」,「データの分析」,「場合の数と確率」,「整数の性質」,「図形の性質」 主に「2 次関数」,「図形と計量」,「場合の数と確率」に重点をおいて復習する。				
到達目標	数学ＩＡの基礎学力の定着を図るとともに実践力を習得する。また，演習問題を通して出題の本質を理解し、自ら考え工夫する力を付ける。				
評価方法	定期試験および課題の提出状況・授業に取り組む姿勢で評価をする。 特に提出物（内容を重視）は大きく評価をする。				
使用教材	教員のプリント				
その他	まずは演習量の確保が必要です。授業は勿論ですが、復習＋自己学習を心掛けるようにしてください。				

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年 創造 （7限）	数学Ⅰ	数学Ⅰ・A	数と式		■	■		1学期中間試験					1学期末試験			夏休み						2学期中間試験						2学期末試験			冬休み						学年末試験		
			集合と論理			■	■																																
			2次関数					■	■	■	■																												
			図形と計量											■					■	■	■	■																	
			データの分析																			■																	
			場合の数																			■	■	■															
			確率																						■	■		■											
			整数の性質																												■	■	■						
			図形の性質																															■	■	■			

授業科目	数学　Ⅱ				平成30年度 数学科シラバス
学年・類 （コース）	2学年	創造（文系）	単位数	4	
授業内容	第1章　式と証明 3 次の乗法公式，因数分解を理解する。二項定理を理解する。等式・不等式を証明する方法を理解する。相加平均・相乗平均を理解する。 第2章　複素数と方程式 複素数の四則計算を理解する。2 次方程式の解の公式，解の判別方法，解と係数の関係を理解する。剰余の定理・因数定理を理解する。 第3章　図形と方程式 2 点間の距離や内分点・外分点の座標を求められるようにする。直線の方程式の一般形，2 直線の平行・垂直条件を理解する。円の方程式を理解する。軌跡を求められるようにする。不等式の表す領域を図示できるようにする。 第4章　三角関数 一般角，弧度法について理解する。三角関数を理解する。三角関数のグラフをかけるようにする。三角関数を含む方程式や不等式の解法を理解する。加法定理を理解する。2 倍角・半角の公式，合成を理解する。 第5章　指数関数・対数関数 0 や負の整数，有理数の指数を理解する。累乗根を含む式の計算方法を理解する。対数の定義，性質，底の変換公式を理解する。指数関数・対数関数のグラフを理解する。指数関数・対数関数の性質を方程式・不等式の解法に活用できるようにする。常用対数を理解する。 第6章　微分と積分 平均変化率，極限値，微分係数を理解する。導関数を求めることができるようにする。関数の増減，極値，を求めることができるようにする。3 次関数のグラフ，関数の最大値・最小値，方程式の実数解の個数を求める方法を理解する。 不定積分・定積分を求め、定積分を利用して図形の面積を求めることができるようにする。				
到達目標	式と証明，複素数と方程式，図形と方程式，三角関数，指数関数・対数関数および微分と積分について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。				
評価方法	定期考査，実力テスト，小テストなどで到達度を問う。課題やノートなどの提出物及び授業態度も考慮し総合的に評価する。				
使用教材	教科書:「新編数学Ⅱ」（第一学習社） 副教材:「ネオパル　数学Ⅱ」（第一学習社）				

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年 創造 （文）	数学Ⅱ	式と証明	式と計算					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
			等式・不等式の証明																																				
		複素数と方程式	複素数と方程式の解																																				
			高次方程式																																				
		図形と方程式	点と直線																																				
			円の方程式																																				
			軌跡と領域																																				
		三角関数	三角関数																																				
			三角関数の加法定理																																				
		指数関数・対数関数	指数関数																																				
			対数関数																																				
		微分と積分	微分係数と導関数																																				
			関数の値の変化																																				
			積分																																				

授業科目	数学　Ⅱ				平成30年度 数学科シラバス
学年・類（コース）	2学年	創造（理系）	単位数	4	
授業内容	第1章　式と証明 3 次の乗法公式，因数分解を理解する。二項定理を理解する。等式・不等式を証明する方法を理解する。相加平均・相乗平均を理解する。 第2章　複素数と方程式 複素数の四則計算を理解する。2 次方程式の解の公式，解の判別方法，解と係数の関係を理解する。剰余の定理・因数定理を理解する。 第3章　図形と方程式 2 点間の距離や内分点・外分点の座標を求められるようにする。直線の方程式の一般形，2 直線の平行・垂直条件を理解する。円の方程式を理解する。軌跡を求められるようにする。不等式の表す領域を図示できるようにする。 第4章　三角関数 一般角，弧度法について理解する。三角関数を理解する。三角関数のグラフをかけるようにする。三角関数を含む方程式や不等式の解法を理解する。加法定理を理解する。2 倍角・半角の公式，合成を理解する。 第5章　指数関数・対数関数 0 や負の整数，有理数の指数を理解する。累乗根を含む式の計算方法を理解する。対数の定義，性質，底の変換公式を理解する。指数関数・対数関数のグラフを理解する。指数関数・対数関数の性質を方程式・不等式の解法に活用できるようにする。常用対数を理解する。 第6章　微分と積分 平均変化率，極限値，微分係数を理解する。導関数を求めることができるようにする。関数の増減，極値，を求めることができるようにする。3 次関数のグラフ，関数の最大値・最小値，方程式の実数解の個数を求める方法を理解する。 不定積分・定積分を求め、定積分を利用して図形の面積を求めることができるようにする。				
到達目標	式と証明，複素数と方程式，図形と方程式，三角関数，指数関数・対数関数および微分と積分について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。				
評価方法	定期考査，実力テスト，小テストなどで到達度を問う。課題やノートなどの提出物及び授業態度も考慮し総合的に評価する。				
使用教材	教科書:「新編数学Ⅱ」（第一学習社） 副教材:「スタディ　数学Ⅱ」（第一学習社）				

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年 創造 （理）	数学Ⅱ	式と証明	式と計算					1学期中間試験						1学期期末試験									2学期中間試験						2学期期末試験									学年末試験		
			等式・不等式の証明																																				
		複素数と方程式	複素数と方程式の解																																				
			高次方程式																																				
		図形と方程式	点と直線																																				
			円の方程式																																				
			軌跡と領域																																				
		三角関数	三角関数																																				
			三角関数の加法定理																																				
		指数関数・対数関数	指数関数																																				
			対数関数																																				
		微分と積分	微分係数と導関数																																				
			関数の値の変化																																				
			積分																																				

授業科目	数学B				平成30年度 数学科シラバス
学年・コース	2学年	創造(文系)	単位数	2	
授業内容	第1章　平面上のベクトル ベクトルの意味，加法・減法，実数倍を理解する。ベクトルの成分と成分による演算，ベクトルの大きさについて理解する。ベクトルの内積を理解する。位置ベクトルの意味や線分の内分点・外分点の位置ベクトルを理解する。位置ベクトルを用いて平面図形を調べる。ベクトル方程式の意味，直線や円のベクトル方程式を理解する。 第2章　空間のベクトル 座標空間の意味を理解し座標平面に平行な平面の方程式を理解する。空間におけるベクトルの演算について，平面上のベクトルの場合と同様にできることを理解する。空間におけるベクトルの成分や成分による演算，2 点間の距離などを理解する。空間におけるベクトルの内積，ベクトルの垂直を理解する。空間における位置ベクトルを理解し，空間図形の性質を調べる。球面の方程式を理解する。 第3章　数列 数列の概念，用語の意味を理解する。等差数列の意味，一般項，和の公式を理解する。等比数列の意味，一般項，和の公式を理解する。自然数の 2 乗の和の求め方を理解する。記号 Σの意味，性質，公式を理解する。階差数列を理解する。和が与えられた数列の一般項や，分数の数列の和を求めることができるようにする。漸化式から一般項を求められることを理解する。数学的帰納法の考え方を理解する。				
到達目標	数列，ベクトルについて理解させ基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し，表現する能力をのばすとともに，それらを活用する態度を育てる。				
評価方法	定期試験および授業中の確認テスト・小テスト・課題の提出状況・授業に取り組む姿勢で評価をする。				
使用教材	教科書:「新編　数学B」(第一学習社) 副教材:「ネオパル　数学B」(第一学習社)				
その他					

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年 創造 (文)	数学B	平面上のベクトル	ベクトルとその演算		■	■	■	1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
			平面図形とベクトル						■	■	■	■		■																									
		空間のベクトル	空間のベクトル											■					■	■	■	■																	
		数列	等差数列と等比数列																						■	■	■												
			いろいろな数列																									■			■	■							
			漸化式と数学的帰納法																															■	■	■			■
		確率分布と統計的な推測	確率分布																																				
			統計処理																																				

授業科目	数学B				平成30年度 数学科シラバス
学年・コース	2学年	創造(理系)	単位数	2	
授業内容	第1章　平面上のベクトル ベクトルの意味，加法・減法，実数倍を理解する。ベクトルの成分と成分による演算，ベクトルの大きさについて理解する。ベクトルの内積を理解する。位置ベクトルの意味や線分の内分点・外分点の位置ベクトルを理解する。位置ベクトルを用いて平面図形を調べる。ベクトル方程式の意味，直線や円のベクトル方程式を理解する。 第2章　空間のベクトル 座標空間の意味を理解し座標平面に平行な平面の方程式を理解する。空間におけるベクトルの演算について，平面上のベクトルの場合と同様にできることを理解する。空間におけるベクトルの成分や成分による演算，2 点間の距離などを理解する。空間におけるベクトルの内積，ベクトルの垂直を理解する。空間における位置ベクトルを理解し，空間図形の性質を調べる。球面の方程式を理解する。 第3章　数列 数列の概念，用語の意味を理解する。等差数列の意味，一般項，和の公式を理解する。等比数列の意味，一般項，和の公式を理解する。自然数の 2 乗の和の求め方を理解する。記号 Σの意味，性質，公式を理解する。階差数列を理解する。和が与えられた数列の一般項や，分数の数列の和を求めることができるようにする。漸化式から一般項を求められることを理解する。数学的帰納法の考え方を理解する。				
到達目標	数列，ベクトルについて理解させ基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し，表現する能力をのばすとともに，それらを活用する態度を育てる。				
評価方法	定期試験および授業中の確認テスト・小テスト・課題の提出状況・授業に取り組む姿勢で評価をする。				
使用教材	教科書:「新編　数学B」(第一学習社) 副教材:「スタディ　数学B」(第一学習社)				
その他					

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年 創造 (理)	数学B	平面上のベクトル	ベクトルとその演算					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
			平面図形とベクトル																																				
		空間のベクトル	空間のベクトル																																				
		数列	等差数列と等比数列																																				
			いろいろな数列																																				
			漸化式と数学的帰納法																																				
		確率分布と統計的な推測	確率分布																																				
			統計処理																																				

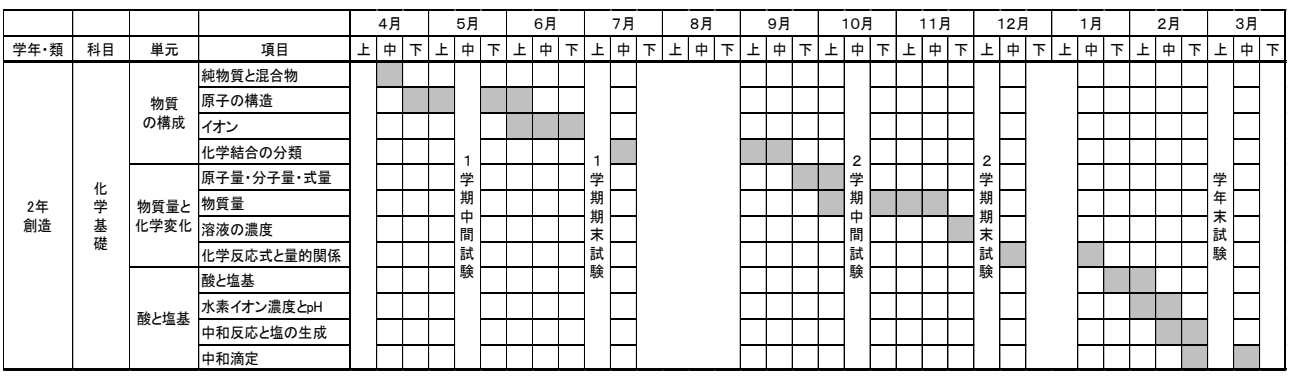
授業科目	物理				平成 30 年度 理科シラバス
履修学年・ｺｰｽ	2 学年	創造コース	単位数	3	
授業内容	運動の表し方の復習もかねて平面内の運動を学習した後、波動分野を物理基礎にある基本から入って、波の伝わり方、音、光について学習する。その後、力と運動の残りの分野をすべて学習する。 １力と運動 ・平面内（二次元）の運動を扱いベクトル量の理解をより深める。 ・回転の要素も含めて剛体に働く力のつり合いを考えることで、重心の意味や日常の力学現象がより豊かに捉えられるようにする。 ・運動量と力積の概念を学習し仕事とエネルギーの関係との対比を図る。 ・円運動、単振動、万有引力、向心力等を学び自然現象への視野を広げる。 ２　波 ・波の性質、種類、伝わり方、波の表示法、発音体の固有振動などを学ぶことにより、身近にある波動現象をより豊かに捉えられるようにする。 ・音のところではドップラー効果を重点的に扱う。				
到達目標	理科の目標 ・日常の様々な事象を科学的観点から見つめる事ができる、豊かな自然観をもった人物を育てる。 ・科学的なリテラシーをもった、自然科学が好きな人物を育てる。 学習の目標 ・剛体の学習を通して、身近なところで実際の物体に成り立っている力関係が正しく捉えられるようにすること。 ・波動という視点から日常に生起する諸現象を眺めることによって視野を広め、物理現象の理解を深めること。 ・センター試験レベルに止まらず大学の二次試験問題を解く力をつけること。				
評価方法	定期考査・小テスト・課題の取り組み状況・平常授業の取り組み姿勢、等から総合的に判断して評価する。 知識・理解・思考・判断・技能・表現は主として定期考査から、関心・意欲・態度は主として定期考査以外の内容から判断する。その際、定期考査とそれ以外の比率を決めるなどして担当者によって差がでないよう考慮して評価する。				
使用教材	教科書：物理（数研出版） 副教材：リードα物理（数研出版） フォローアップドリル物理基礎　　□波・電気（数研出版） 物理図録（数研出版）				

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年 創造 コース	物理	力と運動	平面内の運動					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
			剛体																																				
			運動量の保存																																				
			円運動と万有引力																																				
		波	波の性質と伝わり方																																				
			音の伝わり方																																				
			光																																				

授業科目	化学基礎				平成 30 年度 理科シラバス
学年･コース	2 学年	創造･文系	単位数	2	
授業内容	【化学基礎】 第１編　物質の構成 原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解させる。また、物質の性質については化学結合との関係を理解させ、物質について微視的な見方ができるようにする。 第２編　物質の変化 物質量を学習した後、化学反応の量的関係，酸と塩基の反応から化学反応に関する基本的な概念や法則を理解させるとともに，それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。				
到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ科学的な見方や考え方を養う。				
評価方法	定期考査・小テスト・課題の取り組み状況・平常授業の取り組み姿勢、等から総合的に判断して評価する。 知識・理解・思考・判断・技能・表現は定期考査から、関心・意欲・態度は定期考査以外の内容から判断する。				
使用教材	新編　化学基礎　東京書籍 新編　化学基礎　ニューサポート　東京書籍				

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年･コース	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年 創造	化学基礎	物質の構成	物質の探究					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
			原子の構造と周期表																																				
			化学結合																																				
		物質の変化	物質量と化学反応式																																				
			酸と塩基																																				

授業科目	化学基礎				平成 30 年度 理科シラバス
学年・コース	2 学年	創造（6 限）・理系	単位数	2	
授業内容	身の回りにある物質の化学的性質を学習した後、物質を構成する原子について学習していく。原子とは目に見えず、質量も極めて小さく取り扱うことを学ぶ。その後化学反応式、酸と塩基を学習する。 １物質量と化学変化 ・ 原子量、分子量などの大小を理解する。 ・ 物質量という集団の粒子の数、質量、体積で表すことができるようになる。 ・ 化学反応式の量的関係を深めることで反応前と反応後での物質の変化を捉えられるようにする。 ２酸と塩基 ・ 酸・塩基の定義、酸・塩基の強弱について理解を深める。 ・ 酸・塩基の反応（中和反応）について、理解する。 ・ H^+の存在濃度より溶液が何性なのと呼ばれることを理解し、未知の H^+の濃度を中和滴定から求められるようにする。				
到達目標	・ 化学において単体、化合物または物質の三態を捉えられるようにする。 ・ 化学反応の本質を理解させ、応用問題にも対応できるようにする。				
評価方法	定期考査・小テスト・課題の取り組み状況・平常授業の取り組み姿勢、等から総合的に判断して評価する。 知識・理解・思考・判断・技能・表現は定期考査から、関心・意欲・態度は定期考査以外の内容から判断する。				
使用教材	化学基礎　東京書籍 理系：ニューステップアップ　化学基礎　東京書籍 化学図録　数研出版				



授業科目	化学基礎・化学				平成 30 年度 理科シラバス
学年・コース	2学年	創造（7 限）・理系	単位数	4	
授業内容	【化学基礎】 第１編　物質の構成 原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解させる。また、物質の性質については化学結合との関係を理解させ、物質について微視的な見方ができるようにする。 第２編　物質の変化 物質量を学習した後、化学反応の量的関係，酸と塩基の反応及び酸化還元反応から化学反応に関する基本的な概念や法則を理解させるとともに，それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。 【化学】 第１編　物質の状態と平衡 固体、液体、気体の性質を学習した後、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質について理解させるとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。				
到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ科学的な見方や考え方を養う。				
評価方法	定期考査・小テスト・課題の取り組み状況・平常授業の取り組み姿勢、等から総合的に判断して評価する。 知識・理解・思考・判断・技能・表現は定期考査から、関心・意欲・態度は定期考査以外の内容から判断する。				
使用教材	新編化学基礎　東京書籍 化学　　東京書籍 ニューステップアップ　化学基礎　東京書籍 ニューステップアップ　化学　　東京書籍				

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・コース	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年 創造	化学基礎・化学	物質の構成	物質の探究		■			1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験						2学期期末試験									学年末試験		
			原子の構造と周期表			■																																	
			化学結合				■																																
		物質の変化	物質量と化学反応式							■	■	■																											
			酸と塩基										■						■	■																			
			酸化還元反応																		■	■			■	■													
		物質の状態と平衡	物質の状態																								■	■											
			気体の性質																										■			■							
			溶液の性質																														■	■	■				
			固体の構造																																	■		■	

授業科目	生物				平成 30 年度 理科シラバス
学年・コース	2学年	創造・理系	単位数	3	

授業内容

生物基礎

第４部 生物の多様性と生態系

生物の多様性と生態系について観察，実験などを通して探究し，生態系の成り立ちを理解し，その保全の重要性について認識する。

生物

第１部 生命現象と物質

生命現象を支える物質の働きについて考察，実験などを通して探究し，タンパク質や核酸などの物質の働きを理解し，生命現象を分子レベルでとらえる。

第２部 生殖と発生

生物の生殖や発生について観察，実験などを通して探究し，動物と植物の配偶子形成から形態形成までの仕組みを理解する。

到達目標

理科の目標

・日常の様々な事象を科学的観点から見つめる事ができる、豊かな自然観をもった人物を育てる。

・科学的なリテラシーをもった、自然科学が好きな人物を育てる。

学習の目標

・生物や生物現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに，生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を養う。

・センター試験レベルに止まらず大学の二次試験問題を解く力をつけること。

評価方法

下記の(1)～(5)の項目を評価し、各学期の成績は総合的に判断します。

(1)授業への取り組み　授業に対する姿勢，学習態度，生物への関心などで判断する。

(2)ノートの記載内容　授業内容を適切にまとめているか，科学的な思考ができているかなどを評価する。

(3)観察・実験等　観察・実験等を行い，レポートを書く。観察・実験に対する姿勢，予想や考察，器具の操作，報告書などから評価する。

(4)教科書・問題集の問題　各問題への取り組み，取り組んだ内容から評価する。

(5)中間・定期考査　学習内容に合わせて問題を出題する。

使用教材

教科書　生物基礎　東京書籍　　生物　東京書籍

副教材　レッツトライノート生物基礎　数研出版

レッツトライノート生物 Vol1 と Vol2　東京書籍

スクエア最新図説生物　第一学習社

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年 創造 理系	生物基礎	生物と遺伝子	生物の特徴					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
			遺伝子とそのはたらき																																				
		生物の体内環境の維持	生物の体内環境																																				
		生物の多様性と生態系	植生の多様性と分布																																				
			生態系とその保全		*	*	*																																
	生物	生命現象と物質	細胞と分子				*			*	*																												
			代謝									*	*		*																								
			遺伝情報の発現					1学期中間試験					1学期期末試験						*	*	*	*	2学期中間試験	*				2学期期末試験									学年末試験		
		生殖と発生	生殖と発生																						*	*	*		*			*	*							
		生物の環境応答	動物の反応と行動																														*	*	*	*			
			植物の環境応答																																				
		生態と環境	生物群集と生態系																																				
		生物の進化と系統	生命の起源と進化																																				
			生物の系統																																				

授業科目	体育（体育実技1単位、柔道1単位）				平成30年度 シラバス
履修　類・学年	全コース	2年男子	単位	2	
授業内容	・集団行動 学校生活の中で集団行動する機会が非常に多い。このような場合、守らなければならない諸事項をお互いに守ることによって、集団として秩序を身につける。 ・体づくり運動 自分の体力・運動能力の現状を確かめる。その結果をよく分析して、不足している能力を高めるためいろいろなスポーツ活動に親しみ、ますます心身を鍛錬して、健康で充実した学校生活が送れるよう努力することを学ばせる。 ・ソフトテニス、サッカー 集団スポーツの特性を理解する。基本的ルールを理解するとともに基本的技能を身につけ、技術を上達させる。 ・持久走（特色種目） 体力とともに最後まで走り抜く精神力と忍耐を養い、今後の学習活動に活かす。マラソン大会の安全対策とマラソン事前学習の習得とする。 ・陸上 歩く、走、跳、投の人間の基礎的・基本的運動を身につける。体力や運動能力をそれぞれの種目で十分に生かすためには、合理的な運動の技術を身につける。 ・柔道 柔道の基本技術を身につける。相手の動きに対応した攻防ができる。強い精神力と相手を尊重し思いやる心を身につける。ルールを守り、安全に試合ができるようにする ・体育理論 合理的な動きを理解し、練習によって身につけることや、必要な体力をトレーニングによって向上させることで、運動やスポーツを生涯にわたって継続していくための基礎を学習する。				
到達目標	・積極的に楽しく運動に取組んでいる。 ・声を掛け合い、励まし合い、教え合いならが技術の習得に取り組んでいる。 ・ゲームを進めるためのルールを理解している。 ・スキルテストで標準技能や技術を習得させる。				
評価方法	・関心、意欲、態度　・思考判断　・技能　・知識理解				
使用教材	アクティブスポーツ総合版（大修館）				

●授業進度表

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年男子	体育	集団行動	姿勢、方向転換	■	■	■		1学期中間考査					1学期期末試験									2学期中間考査						2学期期末試験									学年末試験		
			集合、整とん、隊形、解散	■	■	■																																	
		体力づくり	体ほぐしの運動	■	■	■	■																																
			体力を高める運動	■	■	■	■																																
		球技	基本的技能運動							■	■	■	■									■	■	■	■	■	■	■	■										■
			基本的技術運動							■	■	■	■									■	■	■	■	■	■	■	■										■
		陸上	基礎、基本的な運動																■	■	■																		
			合理的な運動																■	■	■																		
		柔道	基礎、基本の特性運動							■	■	■	■									■	■	■	■	■	■	■	■										
			相手との対応した動き							■	■	■	■									■	■	■	■	■	■	■	■										
		持久走	体力向上の運動																												■	■	■	■	■				
			精神力や忍耐カメントレ																												■	■	■	■	■				
		体育理論	合理的な運動を学習する									■														■													
			練習方法や必要な体力									■																							■				
			生涯スポーツの意味									■														■									■				

授業科目	体育				平成30年度 シラバス
履修　類・学年	全コース	2年女子	単位	2	
授業内容	・集団行動　学校生活の中で集団行動する機会が非常に多い。このような場合、守らなければならない諸事項をお互いに守ることによって、集団として秩序を身につける。 ・体力つくり運動　自分の体力・運動能力の現状を確かめる。その結果をよく分析して、不足している能力を高めるためいろいろなスポーツ活動に親しみ、ますます心身を鍛錬して、健康で充実した学校生活が送れるよう努力することを学ばせる。 ・バレーボール、ソフトテニス　集団スポーツの特性を理解する。基本的ルールを理解するとともに基本的技能を身につけ、技術を上達させる。 ・ダンス ダンスの特性について知る。心と体を解きほぐし、ダンスを通して誰とでも関ることをできるよう学習する。 ・持久走（特色種目） 体力とともに最後まで走り抜く精神力と忍耐を養い、今後の学習活動に活かす。マラソン大会の安全対策とマラソン事前学習の習得とする。 ・陸上　歩く、走、跳、投の人間の基礎的・基本的運動を身につける。体力や運動能力をそれぞれの種目で十分に生かすためには、合理的な運動の技術を身につける。 ・体育理論　合理的な動きを理解し、練習によって身につけることや、必要な体力をトレーニングによって向上させることで、運動やスポーツを生涯にわたって継続していくための基礎を学習する。				
到達目標	・積極的に楽しく運動に取組んでいる。　・声を掛け合い、励まし合い、教え合いならが技術の習得に取り組んでいる。　・ゲームを進めるためのルールを理解している。・スキルテストで標準技能や技術を習得させる。				
評価方法	・関心、意欲、態度　・思考判断　・技能　・知識理解				
使用教材	アクティブスポーツ総合版（大修館）				
その他					

●授業進度表

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年女子	体育	集団行動	姿勢、方向転換	■	■	■		1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
			集合、整とん、隊形、解散	■	■	■																																	
		体力づくり	体ほぐしの運動	■	■	■	■																																
			体力を高める運動	■	■	■	■																																
		球技	基本的技能の復習							■	■	■	■	■								■			■	■	■	■	■									■	
			発展練習							■	■	■	■	■								■			■	■	■	■	■									■	
		陸上	基礎、基本的な運動																■	■	■																		
			合理的な運動																■	■	■																		
		ダンス	簡単なコンビネーション							■	■	■	■	■								■			■	■	■	■	■										
			創作ダンス							■	■	■	■	■								■			■	■	■	■	■										
		持久走	体力向上の運動																												■	■	■	■	■				
			精神力、忍耐力メントレ																												■	■	■	■	■				
		体育理論	合理的な運動を学習する									■														■								■					
			練習方法や必要な体力									■														■								■					
			生涯スポーツの意味									■														■								■					

授業科目	保健				平成30年度 シラバス
履修　類・学年	全コース	2年	単位	1	
授業内容	1学期　生涯を通じる健康（思春期と健康～加齢と健康） 2学期　生涯を通じる健康（高齢者のための社会的取り組み～さまざまな保健活動や対策） 3学期　社会生活と健康（大気汚染と健康～健康的な職業生活） クラス単位の講義形式。 視聴覚室でビデオ学習することもある。 青年期から壮年期へと年齢を重ねるにつれ増大していく危険因子を理解し、健やかな生き甲斐のある老年期を迎えるための健康管理を学ぶ。 現代社会で重大な健康問題の1つである。地球規模の環境汚染について、私たちがすべきことは何かを学ぶ。 健康的な生活をすごすために重要な食品衛生と労働安全について何をすべきか学ぶ。				
到達目標	1年で学んだ「現代社会と健康」をふまえ、生涯を見通した、健康生活の設計を立てさせる。				
評価方法	定期考査を主な評価対象とするが授業態度、ノート提出、出席状況等を加味して総合評価をする。				
使用教材	教科書「保健体育」（大修館） ノート「現代保健ノート」（大修館）				
その他	必履修科目				

●授業進度表

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年	保健	生涯を通じる健康	思春期と健康		■																																	
			性意識と性行動の選択			■																																
			結婚生活と健康				■		■																													
			妊娠・出産と健康							■																												
			家族計画と人工妊娠中絶								■	■		■																								
			加齢と健康																■																			
			高齢者のための社会的取り組み																	■																		
			保健制度とその活用					1学期中間試験					1学期期末試験								■		2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
			医療制度とその活用																			■																
			医薬品と健康																				■															
			さまざまな保健活動や対策																					■														
			大気汚染と健康																						■													
		社会生活と健康	水質汚濁・土壌汚染と健康																							■												
			健康被害の防止と環境対策																									■										
			環境衛生活動のしくみと働き																												■							
			食品衛生活動のしくみと働き																													■						
			食品と環境の保健と私たち																														■					
			働くことと健康																															■				
			労働災害と健康																																■			
			健康的な職業生活																																		■	

授業科目	コミュニケーション英語Ⅱ				平成 30 年度 英語科シラバス
学年・類（コース）	2	創造	単位数	4	
授業内容	テキストに沿ってさまざまな英文を読み,的確に理解しながら自分なりの意見を持ち,知見を広げる。「聞く」「読む」「話す」「書く」の４技能を有機的に関連付け,総合的に学習を行う。アクティビティなどの言語活動,自宅学習においても積極的な姿勢を持つことが求められる。 ①Listening を使った聞く活動 ②Speaking を使った表現活動 ③Comprehension を使った内容理解および語彙定着 ④その他にも随時，副教材や資料等を使用しながら,総合的な英語力を涵養する				
到達目標	英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養います。 特に，「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の４技能について学年末までに次のことができるようになることを目指します。 ①授業における英語による指示や，教科書と同じ語彙レベルのさまざまな英文や対話を聞いて，その概要や要点を理解することができる。 ②教科書と同じ語彙レベルのさまざまな内容の英文を読んで理解することができる。また聞き手に伝わるように教科書を音読することができる。 ③教科書で学んだ内容や自分の経験や知っていることについて，簡単な英語で話すことができる。 ④身近な出来事や自分の考えを，簡単な英文で読み手に伝わるように書くことができる。				
評価方法	定期考査 50% 平常点：①単語テスト 10%　②授業参加 10%　③評価シート 10%　④スピーキングテスト 10%　⑤課題 10%				
使用教材	Revised BIG DIPPER English Communication Ⅱ Revised BIG DIPPER English Communication Ⅱワークブック ターゲット 1200 エースクラウン英和辞典				
その他					

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・コース	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年 創造	コミュニケーション英語Ⅱ	Lesson 1	Wshoku Around the World					1学期中間試験						1学期期末試験									2学期中間試験						2学期期末試験									学年末試験		
		Lesson 2	Chirori, the Fierst Therapy Dog in Japan																																				
		Lesson 3	How Good Is Your Memory?																																				
		Lesson 4	Space Elevator																																				
		Lesson 5	ersity Brings New Produ																																				
		Lesson 6	Ueno Takahiro: The Dancer in Me																																				
		Lesson 7	The France Okaeshi Project																																				
		Lesson 8	What Is the True Meaning of Mottainai?																																				
		Lesson 9	Fair Play in Sports: What Is "Fair"?																																				
		Lesson 10	Floating Education																																				

授業科目	英語表現Ⅱ	平成30年度

学年・類（コース）	2 学年	創造	単位数	2単位	英語科シラバス
授業内容	アクティブラーニング型授業を中心に、Try It!、For Communication Speaking、Activity Writing を通して、文法・語法の知識を身に付けながら、同時に様々な表現を習得し、自己表現できるようにする。自己・友人・教師のフィードバックを基に、平易な表現を用いて読み手・聞き手に理解しやすい英語を段階的に身に付けられる活動を主とする。				
到達目標	英語学習を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すると共に、意見などを多様な観点から考察し、論理の展開などを工夫しながら伝える能力を伸ばす。具体的には、 ①与えられた条件に合わせて表現できる ②主題を決め、様々な種類の文の作成ができる ③聞く・読む活動を通して得た知識を基に、自分の考えなどを含めて表現できる				
評価方法	・　定期考査点 60%、平常点 40%の割合で、各学期の評価点を算出する。 平常点の内訳 ①提出物（10%） ②パフォーマンス（10%） ③ポートフォリオ（10%） ④小テスト（10%）とする。				
使用教材	・Vivid English Expression Ⅱ ・Vivid English Expression Ⅱ Workbook ・ラ･ナーズ高校英語 ・辞書				
その他					

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・コース	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年創造	英語表現Ⅱ	Lesson 1～4	時制・助動詞		■	■	■																																
		Lesson 5～9	受動態・進行形・不定詞					1学期中間試験		■	■	■	1学期末試験										2学期中間試験					2学期末試験									学年末試験		
		Lesson 10～14	動名詞・分詞・原形不定詞											■					■	■	■	■																	
		Lesson 15～18	比較・接続詞・関係代名詞																				■	■	■	■													
		Lesson 19～22	関係副詞・仮定法・様々な構文																												■	■	■	■					

授業科目	家庭基礎				平成30年度
学年（コース）	2学年	創造	単位数	2	家庭科シラバス

授業内容	● 人の一生と家族・家庭、衣食住、消費生活について学習する。 ● 各分野の基礎的・基本的な知識や技術を、実践的・体験的な学習を通して習得する。 ● 家庭生活の意義や社会とのかかわりを理解し、男女が協力して家庭や地域の 生活課題を主体的に解決する能力と態度を育てる。
到達目標	● 家庭や地域の生活を主体的に創造する能力を身につける。 ● 生活を充実・向上しようとする実践的な態度を持つことができる。
評価方法	① 授業、実習での意欲関心 ② 定期テスト、課題・作品 ③ 忘れ物、提出物等を総合的に判断して評価をする。
使用教材	教育図書　家庭基礎～ともに生きる　明日をつくる～
その他	実習費が必要 実習の際には、裁縫道具・エプロン・三角巾・ふきん・マスクが必要

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年 創造	家庭基礎	ともに生きる	人の一生と家族		■			1学期中間試験					1学期期末試験									2学期中間試験						2学期期末試験									学年末試験		
			保育			■																																	
			高齢者				■																																
			共生社会						■																														
			生活設計							■	■	■																											
		明日をつくる	衣生活											■					■																				
			被服製作実習																	■	■	■			■														
			住生活																							■	■												
			食生活																								■		■										
			調理実習																												■	■	■	■					
			消費生活																																■				
			環境																																			■	